

JCSSA 台湾 COMPUTEX 台北 2015 ツアーレポート

日本コンピュータシステム販売店協会は、2015年6月1日から3日にかけて、初めてとなる COMPUTEX 台北 2015 視察ツアーを実施した。この COMPUTEX 台北はアジアで最大のコンピュータフェアであり、本年が 35 回目となる。JCSSA の会員はすでに個別にツアーを実施しているところもあり、このツアーの実施が危ぶまれたが、初めて視察する会員企業の富士通エフサス、富士通エフサスカスタマーサービス、クリエイトラボ、インターリンクの役員の方々5名と事務局1名の計6名が参加した。

全員が COMPUTEX 台北 2015 の規模や展示内容に驚き、また台北電子街の最新ビル視察では提案型店舗の斬新さに感動し、そして3日目はトレンドマイクロ社を訪問し最新技術のプレゼンを聞いて活発な意見交換を行った有意義な機会であった。

① 電波新聞大橋氏による概要セミナー

到着後、COMPUTEX 台北を 17 年連続で取材している電波新聞の大橋取締役から、このフェアの見どころをお話頂いた。まず台湾について人口 2300 万人、日本統治 50 年、中国統治 50 年という歴史があり、現在は日本との輸出入は多く、台湾新幹線は日本製を導入したなど関係は深いとのことであった。

COMPUTEX 台北の会場は 2 カ所に分かれ、南港会場と世貿会場の間はシャトルバスが頻繁に運行され 30 分程度で移動できる。また入場登録の ID カードで地下鉄にも無料で乗ることができる。世貿会場のホール 1 は、3D ビジネス、ウェアラブルなど新技術ゾーンがある。ホール 3 はハンドヘルド系やスマート系の製品が展示されている。



南港会場は 1 階と 4 階があり、1 階はタッチパネルやストレージなど周辺機器が多く、4 階では、ASUS や ACER など大メーカーを中心とした製品展示となっている。南港の隣には現在、ソフトウェアパークを建設中とのことであった。

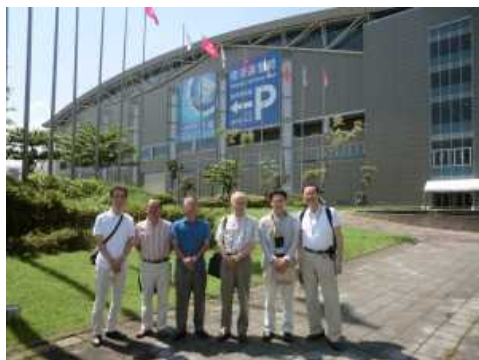
COMPUTEX 台北開会に先立って ASUS の発表会があったが、派手な演出がされていた。今年の展示は、IoT、クラウド、スマホが柱となっている。また展示は目に訴えるわかりやすい演出がされている。例えば高温や低温に強いという表現に、火山や氷山



を使うなどである。肌着に組み込んだ心拍計は日本だと洗いたくなるが、使い捨てを前提で量産するという発想であった。「台湾の開発スピード、日本のクオリティ、そして中国のコスト競争力を持つ製品作り」を実現したのが台湾メーカーであり、その成果がこの展示会であると同った。多くの写真を見せて頂き、わかりやすく会場の雰囲気が理解できた。

② COMPUTEX 台北 2015 フェア会場

我々は専用車でまず、遠い方の南港会場へ向かった。道路はわりと渋滞もなく、宿泊したゴールデンチャイナホテルから 30 分かかからずに会場に到着した。10 時からオープニングセレモニーがあり、各社の代表や馬英九総統も挨拶されていたが、言葉がわからないので、我々は展示会場に向かった。



南港 4 階は大手メーカーが多く、インテルや ASUS、ACER などが大きなスペースを取っていた。またマイクロソフトでは Windows10 をデモしており、各社の PC で操作することができた。1 階では専門メーカーの展示が多く、また Best Choice Award の表彰を受けた製品が 1 カ所に集められ話題の製品が一目でわかるようになっていた。

午後はシャトルバスで移動して、世貿会場へ向かったが 20 分程度で到着した。ホール



1 では周辺機器がいろいろ展示されていた。3D プリンターのメーカーが多く、米国の特許をうまく回避したのだろうか。また BC アワードを取った指輪型のメモリは面白く、応用範囲が広がるだろう。台湾人は昔から独立心が強く、仕事を覚えるとすぐ独立する傾向があった。この「独立心」が、この会場内の多くのベンチャー企業の原動力になっていると思われた。

ホール 1 の 2 階会場では、香港や深圳のメーカーが周辺機器の展示をしていた。台湾メーカーに比べると最新技術ではないが、様々なものを出していた。「知恵家庭」という文字が不思議だったが、スマートホームの意味とわかった。COMPUTEX 台北では展示のジャンルが広い。大橋氏によると少し陰りを感じるそうだが、我々から見ると日本にはない活気を感じた。日本の展示会にはシリコンバレーのトップは来ないが、COMPUTEX 台北のオープニングセミナーで講演するのは期待度の違いだろうか。



Best Choice Award コーナー



世貿会館 ホール 1

③ 台北電気街視察

2日目の夕食会場に向かう前に、台北の秋葉原と呼ばれる電気街を視察した。忠孝新生駅付近にあり、昔ながらの通り沿いにある専門店街と、新旧2つのビルのテナントと



して入った店がここに集結している。我々はまず昨年オープンしたばかりの新しい「三創生活園區」の中を視察した。ここは鴻海グループの参加企業が運営している。1階はホールとして空いており、イベントスペースのようだった。2階はスマホが中心に、本革で自作できるような材料があった。奥には ASUS や lenovo のコーナーがあり、メーカーが展示販売できるようにショールームにした

と見受けられた。3階はカメラを揃えており、CANON や NICON が展示していた。驚いたのはカメラのアクセサリが豊富に揃えてあり、中高年のマニアを対象にしなが、若者をカメラマニアに育てようという意気込みを感じた。4階は IT 関係となり、SONY も出店していた。またドローンの専門店もあり、若者が結構入っていた。5階は本格的なオーディオフロアとなっていて、マークレビンソンのアンプやタンノイのスピーカなど、高級な製品を並べていた。また奥には中古アナログレコード売場まであった。

この新ビルには大橋氏も驚いており、このようなライフスタイル提案型ショップは日本ではなかなか成り立たない。来年はどう変わっているか、大橋氏が来年再訪した話を聞きたいと思った。

その後、隣にある旧ビルに入った。ここは打って変わってモノ売り型店舗で、こちらの方がホットとする。1階はパソコンや家電の完成品売場で、2階以上は1から2坪のショップがずらりと並んで、専門のモノを並べて商売している。猥雑な店内を楽しみながら見学して、我々はディナーに向かった。



④ トレンドマイクロ社訪問

最終日の午前中はトレンドマイクロ社を訪問した。トレンドマイクロ社の創業者であるスティーブチャン氏は台湾人であるが、起業したのは米国で、現在は日本の東証一部に上場している。開発は全世界で分業して行われている。台北と南京が大きな開発拠点であり、台北ではウイルスバスターの法人・個人向けなどを開発している。また彼らのコア技術である **Smart Protection Network** の開発拠点でもある。また南京ではゲートウェイとモバイル中心に開発をしている。フィリピンはトレンドラボと呼ばれ、ウイルスのパターン分析を行っている。このように開発拠点は世界中に広がっている。第三者によるテストによると、トレンドマイクロ社の防御力は、最高スコアの 99.8%とトップ

を獲得しているという。また、分野ごとでもトップシェアを維持している。



次に **Smart Protection Network** について説明を頂いた。これはグローバルセンサーネットワークを世界的に構築しており、ユーザーから情報が戻ってくる仕組みになっている。様々な方法でそのデータを分析しており、標的型攻撃に有効なビジュアル化した解析方法もある。またサーバアタックを図にして調べ、その流れが 1 カ所に集中していると危ないということで、他社より先んじて

発見ができていそうである。

またモバイルセキュリティについても説明を頂いた。とくにグローバルで、**Android** 端末は着実に増えているが、同時に **Android** をターゲットにした不正アプリは 2015 年 3 月時点で 500 万を超えており、不正アプリ対策は必須であるように感じた。さらには **BYOD** でも会社のデータをスマホ内に残さないようにモバイルを仮想化して画面転送するソリューション **Safe Mobile Workforce** も開発されている。この仕組みは大企業で好評で、すでに中国などにおいて、複数の事例で成功しているとのことであった。今後もトレンドマイクロ社の活躍に期待している。



⑤ その他

今回のツアーは 2 泊 3 日とあっという間のツアーであった。**COMPUTEX** 台北以外にもっと観光などもしたかったところであるが、今回が **JCSSA** で最初の台北ツアーであったということでお許しを頂きたい。台湾は私自身 25 年ぶりの訪問であるが、地下鉄やモノレールができて公共交通が発達したため、車やオートバイの渋滞や排気ガスがずいぶん減ったという印象を持った。今回のツアーも皆様のご協力で、健康で事故なく無事に帰国でき、ご協力を有り難うございました。大変お疲れ様でした。

(**JCSSA** 事務局 松波道廣記)